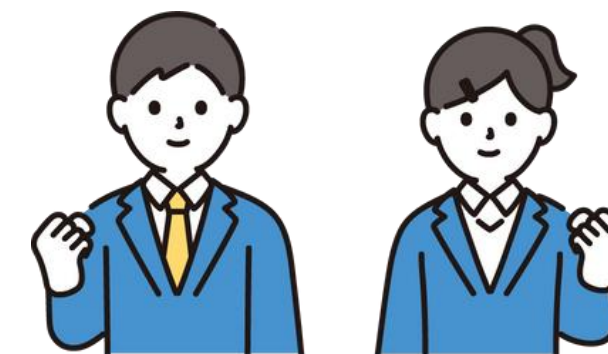


令和6年度 マイスター・ハイスクール普及促進事業成果発表会



DX時代をリードする 高度介護人材の育成

- 愛知から始まる高校福祉の新潮流 -

管理機関：愛知県

事業実施校：愛知県立古知野高等学校

目次

01 MHSビジョン

02 現状と課題

03 育成を目指す力

04 事業内容

05 事業展開イメージ

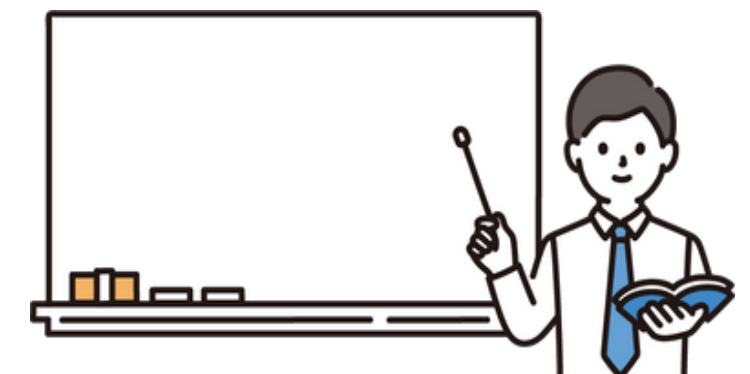
06 今年度の目標

07 取組内容① -科学的根拠に基づく介護実践(EBC)-

08 取組内容② 課題解決型学習(KOCHINOPBL)の推進

09 今後の課題

10 連携体制構築について



01 MHSビジョン

01 科学的裏付けに基づく介護（EBC）を実践するために必要な、高度な介護スキルを育成する。

02 課題解決型学習（KOCHINO PBL）を通して地域の課題解決に挑戦し、DX時代に必要なリーダーシップや課題解決能力を養う。

03 拠点校の取組の成果を他校に還元し、福祉を学ぶ高校と産業界との新たな連携を創出する。



02 現状と課題

01

福祉教育の DX対応と産学連携

DX推進や科学的介護対応のため、福祉系高校の専門教育充実と産業界連携が課題である。

02

時代を切り拓く力の 育成

これからの時代を切り拓く課題解決能力やコミュニケーション力を育む教育の充実が課題である。

03

ネットワーク 機能の充実

各校で産業界との連携を進めているが、ネットワーク不足で持続的な体制構築に課題がある。



03 育成を目指す力

テクノロジーを活用する力

介護分野における生産性向上を目指し、介護ロボットやICT機器等を安全かつ効果的に操作する力を育成する。また、ケアチームや他職種との情報共有や連携を円滑に行うことを目指し、電子介護記録等を活用する力を育成する。テクノロジーを活用することにより対象者の多様なニーズに対応し個別的で質の高いケアを提供することができる高度介護人材を育成する。

情報活用能力

テクノロジーを活用する力だけでは、科学的裏付けに基づく介護を実践することはできない。収集した介護データ（食事摂取量、排泄リズム、睡眠リズムなど）を適切に分析し、対象者一人一人の状態に合わせた適切なケアを提案することができるよう、情報活用能力を育成する。

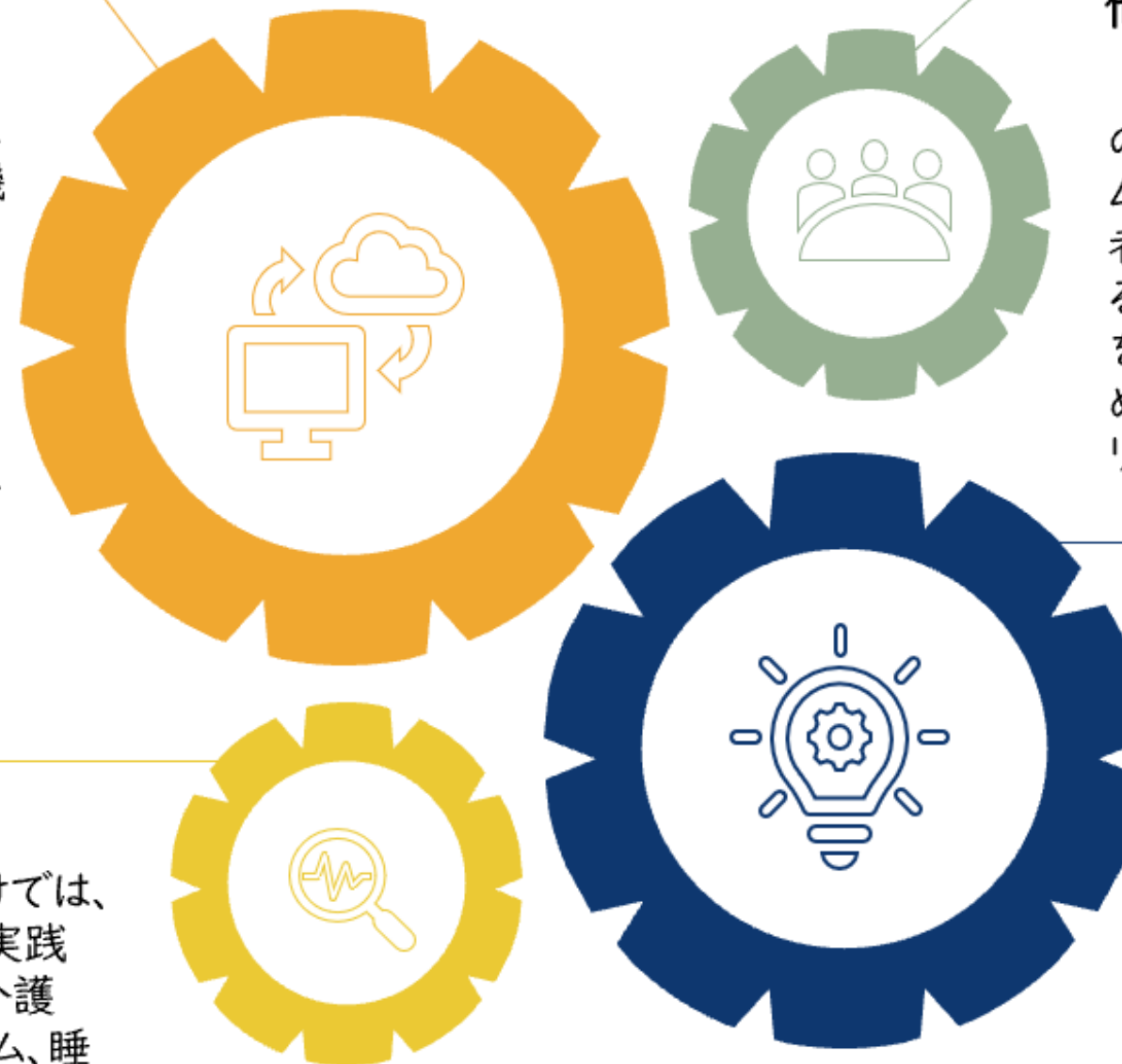
他者と協調・協働する力

介護現場では、各専門職が自分の領域の知識や技術を発揮しチームで業務を進めることにより、対象者への包括的なケアを実践している。本事業では、課題解決型学習を通して、他者と協調・協働するためのコミュニケーションスキルやリーダーシップを育成する。

課題解決能力

複雑な課題が絡み合うDX時代では、課題の本質を見抜き、解決策を考え、課題を解決に導く力が求められる。

本事業では、課題解決型学習を通して、「課題解決能力」を高める。福祉・介護現場の課題や地域の福祉課題等の解決は決して容易なことではない。しかし、上手くいかない場面にこそ学びがあり、チーム力を発揮することができる。試行錯誤を繰り返し、困難な状況をしなやかに乗り越えられる力（レジリエンス）を高めていく。



04 事業内容

科学的裏付けに基づく介護（EBC）の実践

01 介護×ICTの実践 -テクノロジーの善き使い手に-

1年生では、音声入力で行える介護記録AIアプリや電子介護記録等、最新のICT・IoT技術を取り入れた授業やICTを導入している施設への見学を通して、テクノロジーを活用する力を育成する。

3年生の介護実習ではICTを実際に活用し、入力された介護データを利用者情報のアセスメントや介護計画の立案に生かすなど、より実践的に学ぶ。

連携機関：株式会社ケアコネクトジャパン、社会福祉法人愛生館



02 科学的介護の実際 -データを活用した介護過程の展開-

1年生では、社会福祉法人と連携し、科学的介護の取組の実際について食事・入浴・排泄など具体的な生活場面における情報収集や介護実践について学ぶ。

2年生では、介護データの読み取りから分析までを大学教授等から学び、データに基づいて介護過程を展開する力を育成する。

連携機関：社会福祉法人貞徳会、同朋大学



03 認知症ケア最前線 -科学的アプローチで症状改善-

これまで介護現場では、介護職の経験や勘に頼った認知症ケアが実践されてきた。本事業では、認知症ケアにおいて先進的な取組をされている企業との連携により、水分量などの介護データを科学的に分析し、エビデンスに基づいた認知症ケアの実践力を育成する。認知症の症状の緩和や改善に向けたアプローチを学び、2年生の秋の実習では、高齢者入所施設において、学んだことをもとに認知症ケアを実践する。

連携機関：株式会社森津介護サービス



課題解決型学習（KOCHINO PBL）の推進

04 人と人との「つながり」を実感できる地域づくり -共に生きる力を育む-

社会環境の変化により、人と人との「つながり」が希薄化している。地域とのつながりを実感しづらい一人暮らし高齢者や認知症の方などに焦点を当て、サロン運営や認知症カフェの開設などの取組を、地域の福祉機関との協働により実践する。また、大学と連携し、他者と人間関係を育める力や困った時に周囲に相談できる力などの「共に生きる力」を育む福祉教育プログラムの開発を進める。

連携機関：日本福祉大学、江南市社会福祉協議会、江南市中部地域包括支援センター



05 福祉・介護の魅力発信 -THINKER to DOER-

日本では2025年に、約38万人の介護人材が不足すると推計されており、介護人材確保は、全国的な課題である。地域の福祉企業や団体と連携して、小中学生をターゲットに福祉・介護の魅力を効果的に伝える方法を考え実践する。福祉・介護業界に対するネガティブイメージを払拭すべく、「THINKER to DOER（考えるだけの人から行動・実践する人）」の精神で粘り強く取り組む。

連携機関：株式会社ビジョナリー、一般社団法人地域福祉活動協会



06 元気で笑顔あふれるまちに -高校生考案の健康づくり-

江南市では、後期高齢者人口の増加に伴い、要介護認定者が増加することが予測されている。高齢になっても住み慣れた場所で生活を送ることができるよう、高齢者の趣味や特技を生かした場づくりやリハビリテーションの視点を取り入れた介護予防など、健康づくりの在り方を考え実践する。高校生の手で、元気で笑顔あふれるまちづくりを推進する。

連携機関：愛知県理学療法士会、江南市中部地域包括支援センター



05 事業展開イメージ



○愛知県高等学校福祉教育研究会加盟校

- ・県立古知野高等学校
- ・県立高浜高等学校
- ・県立宝陵高等学校
- ・県立桃陵高等学校
- ・県立南陽高等学校
- ・県立福江高等学校
- ・県立杏和高等学校
- ・県立岡崎東高等学校
- ・県立瀬戸北総合高等学校
- ・県立海翔高等学校
- ・県立一宮北高等学校
- ・県立豊田東高等学校
- ・県立豊橋西高等学校
- ・名古屋市立西陵高等学校
- ・菊華高等学校
- ・名古屋大谷高等学校
- ・豊田大谷高等学校
- ・安城生活福祉高等専修学校

計18校 (県立13校、市立1校、私立4校)

06 今年度の目標

R6

基盤の確立

- ・各事業の実践にあたっては、産業実務家教員やPBLアドバイザーとの連携体制を確立し、取組を進める。
- ・産学連携コーディネーターを中心に事業全体の基盤を確立する。
- ・ホームページやSNSを活用して事業の成果を発信する。また、公開授業の実施等により、取組を横展開する。

R7

実践・評価

- ・事業運営委員会や事業推進委員会からの評価やフィードバックにより、各事業を通じた持続的な成長を促進する。
- ・事業運営委員会において、本県におけるこれからの福祉・介護業界の展望を示す。
- ・事業の成果を明らかにし、報告書にまとめる。事業の成果を本格的に他校へ還元する。

R8

新たな展開へ 《目指す姿》

- ・県内外の福祉を学ぶ高校においては、産業界との新たな連携の創出や、既存の連携体制を強化する。
- ・事業運営委員会で示された本県におけるこれからの福祉・介護業界の展望に沿った教育活動を各校で展開する。
- ・拠点校においては、事業の成果を生かした取組を実施する。

07 取組内容① -科学的根拠に基づく介護実践（EBC）-

01 介護×ICTの実践 -テクノロジーの善き使い手に-

【1年生】(株)ケアコネクトジャパンより、ICT機器の操作方法を学んだ。

【2年生】社会福祉法人愛生館へ施設見学に伺い、見守りシステムなど最新のICT技術を学んだ。

02 科学的介護の実際 -データを活用した介護過程の展開-

【1年生】産業実務家教員の授業**24**時間が終了。導入したスカイリフト2台で移乗介護を学んだ。

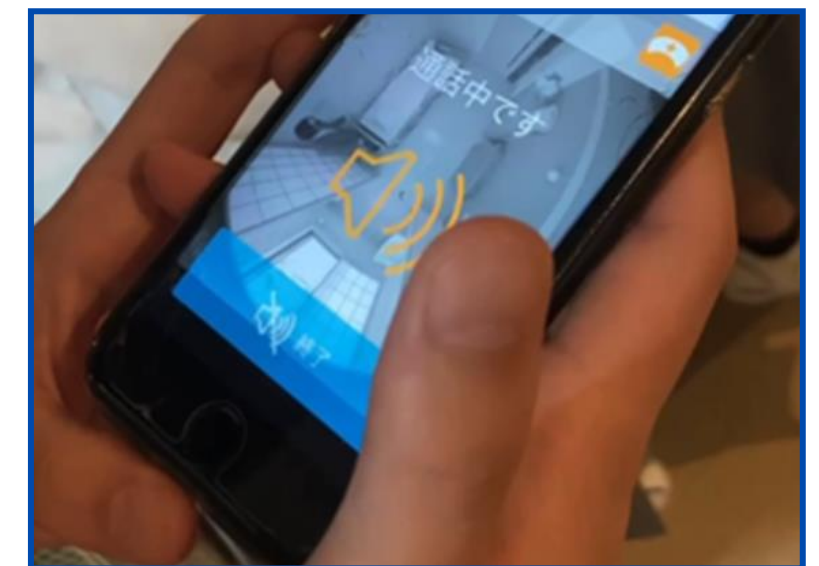
【2年生】産業実務家教員の授業**16**時間が終了。眠りスキャン、体圧測定器などのデータを分析した。

03 認知症ケア最前線 -科学的アプローチで症状改善-

【2年生】産業実務家教員の授業**20**時間が終了。

認知症への多様なアプローチ方法を学び、介護実習でその学びを生かすことができた。

科学的根拠に基づく 介護実践 (EBC)



08 取組内容②

課題解決型学習(KOCHINOPBL)の推進

01 人と人との「つながり」を実感できる地域づくり -共に生きる力を育む-

- ・地域包括支援センターなどと連携して認知症カフェの企画・運営に携わることができた。
- ・日本福祉大学と連携し、小中学生向け福祉教育冊子[CONNECT]を現在作成中。

02 福祉・介護の魅力発信 -THINKER to DOER-

- ・介護職員へのインタビューを実施。魅力発信動画を編集中。家族介護者向けの動画も撮影した。
- ・他の高校とコラボし、福祉・介護を学ぶ高校生の姿をTikTokやInstagramで発信中。

03 元気で笑顔あふれるまちに -高校生考案の健康づくり-

- ・愛知県理学療法士会の監修のもと、認知症対策とフレイル対策の体操を考案した。今後、地域の有料老人ホームに訪問し、実践させていただく。考案した体操は動画にし、広く配布する予定。

課題解決型学習 (KOCHINOPBL) の推進



09 今後の課題

01 介護DXの学びを実践に繋げる環境整備

- ・介護DXについては、授業での学びを実践に繋げるため、介護実習施設との連携を強化し、生徒が現場で実践的なスキルを習得できる環境整備が必要である。

02 地域課題解決の検証と持続可能な取り組みの深化

- ・今年度の成果を基盤に、地域での実践を重ねつつ、真に地域課題の解決に繋がっているかを検証し、持続可能な取り組みを深化させていく必要がある。

03 成果共有の強化と地域連携の拡大

- ・拠点校として事業の推進に注力するあまり、域内の高校等への成果やノウハウの共有が十分に進まなかった。他校も地域との新たな連携を生み出せるよう、成果物の共有などをさらに進めていきたい。

10 連携体制構築について

介護職員必要数 愛知県

厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」

2022年度	2026年度		2040年度	
介護職員数	必要数	現状推移を見込んだ 介護職員数	必要数	現状推移を見込んだ 介護職員数
104, 845	128, 461	110, 281	145, 175	111, 659

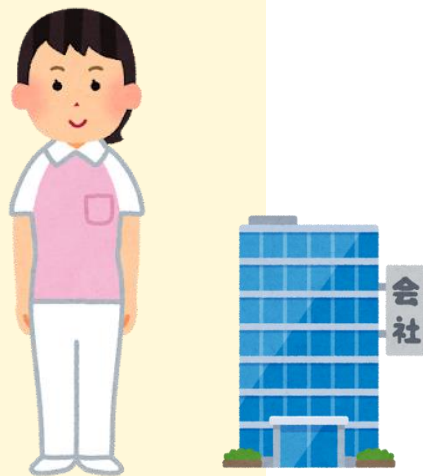
(単位:人)

次世代の福祉を担う人材育成は重要な課題である



産学官との連携による福祉教育の充実

産学官との連携を強化した仕組みづくり



Thank
You

